

NO. 19

発行日 : 2013年12月4日

# 原発事故被害者 相双の会

## 連絡先

國分富夫(会長)

## 住所

〒965-0013 会津若松市堤町6-12

電話 090(2364)3613

## メール

kokubunpi-su@hotmail.co.jp

## 事務局

鈴木宏孝 090-2909-6133(浪江)

坂上義博 090-1067-7265(大熊)

板倉好幸 090-9534-5657(南相馬)

## 秘密保護法案

# 命を守るための国民の「知る権利」はどうなる

## —福島県議会も満場一致で反対の意見書採択



私たちは原発事故により全国ばらばらに逃げました。情報がまったく無いまま逃げたためにたどり着いた所が放射線量がもっとも高いところだったり、避難しないでいた我が街が汚染されていても分からず一ヶ月もいたこともありました。

国が20年以上かけて作り上げたSPEEDY(スピーディ)は原発事故の際に、放射性物質の放出量、気象条件、地形などから放射能が流れていく方向を割り出し、住民の被曝量を迅速に予測し、避難の

必要性を判断したり、緊急時の防災対策に役にたてるためのシステムです。このスピーディーの示した予測結果が「秘密」にされ、最も必要な私たちに知らされなかったのです。

避難経路を明らかにしていれば、被曝を避ける事ができたし、情報公開が人の命を守ることにもつながることが証明されたはずです。

特定秘密法案は解釈や運用で拡大の一途をたどり、原発に関する情報が隠される可能性が大です。また原発の安全性について調査したり言うことがタブー視され、安全神話をつくり、取り返しのつかない大事故をくりかえす恐れがあります。

このように国民の知る権利を剥奪にしていくとすれば民主主義が成り立たなく、まさに歴史の逆行です。

10月の福島県議会は「特定秘密保護法案に反対する」意見書を満場一致で採択しました。当然のことです。

# 11月27日 福島原発避難者訴訟第2回口頭弁論開かれる

## ★原告側の意見

### 生活再建、再出発に必要な賠償を

一人一人の被害者が地域コミュニティから無理矢理ひきはがされ、人間同士の関係を断ち切られ孤立し、従来の人間らしい生活とその基盤を根こそぎ奪われ、今後どこに定着して生活したらいいのか見通しもつかない。すなわち全人格的被害を受けた。

本件事故は公害であり、加害者と被害者は非互換的で、加害行為には利潤性がある。

その上で、広範囲の地域において断続的かつ全面的に深刻な被害を引き起こしている。しかも、事故による非侵害法域は、人格発達権や平穏生活権であり、これまでの差額説的な考え方で扱われるものではなく、このような権利を充

足していた社会的諸条件の効用の回復にこそ損害賠償の目的は据えられるべきである。

生活再建、再出発を行うために必要な賠償、現状回復が図られるべきである。

## ★裁判官の現地検証を求める

公害問題では現場検証があってはじめて実態を理解できるだろうとおもう。

しかし、裁判官は現地検証を拒んでいる。写真を見れば充分と考えているのか理解出来ない。福島第一原発事故は世界に例のない未曾有の重大事故であることを視察し正当な判断材料にさせていただく事が重要と考える。

写真だけで十分な判断が出来るような事であるとすれば避難者の苦しみや悩みを軽く見ていると思わざるを得ない。

## 第3回の口頭弁論 来春 2014年2月12日

第3回口頭弁論では「相双の会」原告団から國分富夫ともう一人(未定)が意見陳述をします。前段の集会と傍聴、審理終了後の報告集会にご参加をお願いします。

日程	2月12日(水)
前段集会	12時30～ いわき市飯野八幡宮
裁判傍聴	14時～ 福島地裁いわき支部
報告集会	15時30～16時30 いわき市飯野八幡宮



会場所在地 飯野八幡宮 いわき市平字八幡小路 84 0246-21-2444  
福島地裁いわき支部 いわき市平字八幡小路 41 0246-22-1321  
※ともにいわき駅より徒歩 15分

# 東京南部から大型交流・視察団、バスで相双へ



←請戸漁港で被災者慰霊の献花をする交流団代表者

右から坂本史子(目黒区議)、奈須りえ(前大田区議)、みずま雪絵(葛飾区議)、國分富夫

11月16～17日にかけて、東京南部(大田・目黒・品川・港)の福島原発事故視察バスツアーがとりくまれました。参加者は37名。一日目は居住制限区域の南相馬小高区と浪江町を視察し、請戸漁港で津波と原発事故犠牲者に慰霊・献花をした。その後南相馬市で、避難者訴訟原告(浪江と小高区からの避難者)ら9名と3時間近く交流。翌17日はいわき市内で、避難者訴訟原告(双葉、楢葉からの避難者)ら7名と2時間交流した。その後、楢葉町、第二原発、富岡町の居住制限区域をバスで視察しながら、富岡の帰還困難区域入口の検問所手前で線量測定をした。線量計が鳴りつづけ草むらでは毎時10 $\mu$ Svまで感知し、皆おどろいていた。

今回のツアーは、今迄では最大の規模で、かつ従来になく被害者との交流に重点をおいたもの。相双の会としても、南相馬といわきの会員・裁判原告を中心にみんなで受け入れ、被害状況の視察だけでなく、多くの被害者の声にじかにふれてもらうことができた。私たちは東電のどういう仕打ちに怒っているか、避難生活にどんな苦しみがあるか、住民がどう分断されているか、何故裁判をするのか、生々しい声を伝えられたため、参加者には多くのことをわかってもらえたと思う。そのことはいただいた感想文によくあらわれている。

## 交流団の感想文

(一部割愛させていただきました。今後順次掲載していきます)

\* この度は皆様のお話を聞くことができありがとうございました。原発事故により、ご苦労多いとは思っていましたが、どの方の体験も大変な状況が続いていて正直質問する余裕などありませんでした。裁判は、「精神的苦痛は命の苦痛、責任をとらせるため」、「子の孫の代への負を残すことになった責任をはっきりさせなければ」…と、お話を聞きながら胸が痛くなりました。政府や東電が責任をまったく感じていない事、マスコミのニュースの流し方、都会に住んでいると、何か分断された意識に危機感をもっていたので、この二日間は貴重でした。相双の会原告団を支える会に入会し、皆様のことを近所の方にも知らせていきたいと思います。

目黒区 N.S

\* この深刻な事態を迎えてしまったことに、自分たちの世代の責任を深く感じて、ある種の無力感にとらわれてしまったこともありました。今回2回の交流会で生の声をうかがえ、自分たちに何ができるかを改めて考えました。東京に住む私たちは、現地の方々の思いやたたかいをうけとめていくと同時に、声をあげやすい雰囲気をつくっていかうと思います。原発事故被害者の皆さんの心が苦しくなるのも体が壊されるのも、命が大事にされないからです。帰ってから、皆さまのお話を一人でも多くの人に伝えていきたいです。

品川区・伊藤由美子

\* 具体的な被災の時の話を聞いたのは、本当によかったです。まわりの人にこの体験を伝えたいと思っています。放射線量の高い通行制限地域の手前では恐怖を感じました。わずかな時間とはいえ、我ながら無茶なことをしていると思うと同時に、この近くに住んでいる方々はもっと多量の被曝を我慢しているのだと思うと、気の毒な気がしました。こういう恐怖や苦しみを生み出している原発を再稼働しようという考えは信じられません。どうすればいいのか？ せめてまわりの人に話すようにしたいと思います。今回は、現地でいろいろなことを進んで話してくれる方々を何人もあつめて、聞く機会を設けてくださって、ありがとうございました。 目黒区・後藤薫

\* 交流会で友人たちに伝えたい言葉は、「反原発を子や孫、その子までも続けていく」「一生分の悲しみ苦しみを原発事故で味わった」「いつも頭は鉛色だ」などなどです。原発は人を分断する。バラバラにならないようにつながれる所につながって生きたい。閉じこもりがちな被災者の心身の病気など、しっかりと伝えていきたいと思います。私の反原発のコダワりは子どもたちや孫たち、その先の世代までも、放射能のゴミを残してしまったということです。また被災者をこんなにつらいめに合わせているのに、事故の責任を誰も取って

いないということです。水の心配、食べ物の心配、外遊びさせていいのか、等々、東京でもそうだったので、福島ではいかばかりだったかと。

大田区・山中菊江

\* 家族が住むのがバラバラ、気持も分かれる、そして精神的な重み。色々なところで知らされてはいたものの、本人の方たちにお聞きしたことは、より大変で重いことを知ることができました。そして頑張って訴訟を進めるすごさ。「死にたい」という人達、原発作業員の実態など、よりはっきり知ることができました。暗い日本に私も暗くなっていますが、どう生きていけばよいか、もっともっと大変な方たちを少しでも支援するすべを考え、行動していきたいと思います。原発はきれいな海ときれいな林、山の間にあるのだということを実感し腹立ちました。 品川区・宗像由美子

\* 逃げた先が一番線量が高かったと、悔しさと怒りを語る姿に、胸がしめつけられる思いがしました。福島の犠牲の上に成り立っている東京の生活を考えると、私たちの責任も重大だと思っています。まずは、聞いたこと、今おきていることをすこしでも多くの職場の仲間に伝えたいと思います。その上でこれからできることを考え実践していきたいと思います。 東京水道労働組合・国谷武志

## 好評! 『相双の叫び』

日本中から注文が来ています。脱原発集会をおこなう埼玉・戸田、茨城・つくばなどから100冊単位で注文。まだ在庫ありますので注文して下さい。

■1冊 300円 ■20冊以上は送料無料。

※注文は標記国分富夫まで、手紙かメールでお願いします。小部数ですと送料がとても割高になりますので、できるだけまとめてご注文ください。

### 「相双の会」 会報に ご意見を

是非ご投稿をいただき「声」として会報に載せたいと考えています。  
匿名でもけっこうです。日ごろ思っていることを打ち明けてください。  
電話 090(2364)3613 メール(国分) kokubunpi-su@hotmail.co.jp

